2024 年度事業報告

事業年度（2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日）

緑：完了、青：継続中、オレンジ：変更・新規、黄色：中止

■留学生及び日本人学生の奨学事業【公 1】（公益目的事業 1 ）

奨学金支給	(1)	渥美奨学金の支給（16 名、月額 25 万円） うち 2 名は藤井・井出奨学資金、2 名は荒井奨学資金から拠出		予定通り実施。 4 月～8 月支給の 2023 年度奨学生と 4 月～9 月支給の 2024 年度奨学生が各 1 名あり。
	(2)	博士号取得者の海外学会参加者奨学金 渥美奨学生で博士号を取得した者に、海外で開催される学会等に参加するための旅費・宿泊費等を支給する。海外に居住する者は、日本への旅費等に充当することができる。（30 万円を上限とする）		・徳永 佳晃：8/13～15。14th AIS Biennial Iranian Studies Conference（第 14 回 国際イラン学会 隔年大会）　於：メキシコ・ メキシコシティ ・久後 香純：2025 年 1 月 29 日～3 月 17 日。“Im So Happy You Are Here: Japanese Women Photographers from 1950s to Now” 展覧会とワークショップ　於：オランダのデン・ハーグ写真美術館
	(3)	元奨学生を対象とした継続支援奨学金 奨学金支給期間に博士号を取得できず、現在も常勤職につかずに研究を続けている者（見込み 10 名）に各 10 万円の奨学金を 5 月、12 月、3 月に支給する。		博士論文を執筆中で常勤職のない元渥美奨学生。 ・5 月理事会の承認後に一時金 10 万円を 7 人に支給（9 月に 1 名が博士号を取得） ・12 月理事会の承認後に一時金 10 万円を 5 人に支給 ・3 月理事会の承認後に一時金 10 万円を 6 人支給
募集選考	(4)	2025 年度第 31 期奨学生（16 名）の募集・選考 応募資格：①奨学期間内に博士号取得の見込み②関東地方の大学院に在籍③日本語が堪能④国際理解に関心		29 大学 13 カ国・地域から 93 名が応募。書類選考、予備面接、最終選考を経て 16 名を採用。日本出身者は 5 名。
	(5)	①　毎月の交流会 4 月　月例会 5 月　個別面談		（＊は対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド方式） 4 月 5 日：2024 年度奨学生最初の集い@渥美財団ホール 5 月 7～15 日：個別面談（対面またはオンライン）

生活支援		6 月　評議員会後懇親会 7 月　宿泊研修 8 月　食事会 9 月　個別面談 10 月　2023 年度奨学生秋季研究報告会* 11 月　見学会 12 月　忘年会 1 月　新年会 2 月　個別面談 3 月　2024 年度奨学生春季研究報告会* 3 月　2024 年度奨学生最後の食事会	6 月 6 日：評議員会後の懇親会に参加@鹿島建設 KI ビル 6 月 28～30 日：韮崎ワークショップ（②参照）@シャトレーゼホテルにらさきの森 7 月 20 日：理事長講演会*と BBQ@渥美財団ホール 9 月 2～6 日：個人面談（対面またはオンライン） 9 月 28 日：秋季研究報告会@渥美財団ホール* 11 月 27 日：新東名高速道路「河内川橋」工事現場見学会＋懇親会 12 月 14 日：忘年会@oto no ha café 1 月 25 日：新年会＆渥美伊都子顧問お誕生会@渥美財団ホール 2 月 3～7 日：個人面談 3 月　1 日：春季研究報告会@渥美財団ホール 3 月 18 日：最後の食事会@スリランカ料理レストラン
		②　宿泊研修を開催 日時：2024 年 6 月 28 日（金）～30 日（日） 会場：シャトレーゼホテルにらさきの森	6 月 28～30 日：韮崎ワークショップ「空間を読む」 （ファシリテータ：シェッダーディ モハッメド アキル(2022 狸)、デール ソンヤ(2012 狸)、盧 ジュウン(2016 狸)、江 永博(2018 狸)、武 瀟瀟(2018 狸)、于 寧(2020 狸)、楠田 悠貴(2023 狸)、辰馬 夏実(財団スタッフ)） 日時：2024 年 6 月 28 日（金）～30 日（日） 会場：シャトレーゼホテルにらさきの森 昨年好評だった韮崎市のシャトレーゼホテルで開催。今年度奨学生（14 名。2023 年度 1 名と 2024 年度 2 名が欠席)、元奨学生 14 名、スタッフ 4 名の計 32 名が参加。全シングルルームの研修施設の上、会議室も貸し切りで快適に過ごした。
	(6)	フォローアップ事業	
		①　宿泊研修（7 月)、秋季研究報告会（9 月)、忘年会（12 月)、新年会（1 月)、春季研究報告会（3 月）に講師、あるいは参加者として元奨学生を招待	宿泊研修（7 月例会）に講師および参加者として元奨学生を招待。秋季研究報告会（10 月例会)、真夏の BBQ（8 月例会)、新年会（1 月例会)、春季研究報告会（3 月例会）に参加者として元奨学生を招待
		②　その他適時世界各地またはオンラインでラクーン会（同窓会）を開催	5 月 19 日：30 周年記念祝賀ソウルラクーン会　42 名 5 月 22 日：仙台ラクーン会　8 名 8 月 12 日：30 周年記念祝賀 AFC7 ラクーン会@バンコク　約 90 名 9 月 13 日：スリランカラクーン会@東京　7 名

				10 月 10 日：美術史ラクーン会　8 名 11 月 10 日：30 周年記念祝賀台湾ラクーン会　65 名 11 月 23 日：30 周年記念祝賀北京ラクーン会　50 名

■留学生及び日本人学生を通じた国際交流事業（SGRA の活動）【公 2】（公益目的事業 2）

学術交流プロジェクトの実施	(7)	第 7 回アジア未来会議		
		①　第 7 回アジア未来会議を開催 会 期：　2024 年 8 月 9 日（金）～ 13 日（火） 会 場：　チュラーロンコーン大学 （タイ国バンコク市） テーマ：　Revitalization and Reconnection （再生と再会） 8 月 10 日：円卓会議、開会式、基調講演、 オープンフォーラム、ウェルカム パーティー 8 月 11 日：円卓会議、分科会、クロージング パーティー 8 月 12 日：スタディーツアー		第 7 回アジア未来会議をチュラーロンコーン大学と共同開催 テーマ：「再生と再会（Revitalization and Reconnection）」 日　時：2024 年 8 月 9 日（金）～13 日（火） 会　場：チュラーロンコーン大学、クラウンプラザホテル、マンダリン ホテル（タイ国、バンコク市） 言　語：基調講演とオープンフォーラムは英語、分科会は英語又は日本語 参加登録数：21 か国 346 名 ■プログラム 基調講演：サノン・ワンスランブーン（バンコク副知事）「バンコクと私 たちの未来」 オープンフォーラム：「アジアの巨大都市と未来への挑戦」 円卓会議Ⅰ：日本・中国・韓国における国史たちの対話の可能性「東アジアの『国史』と 東南アジア」（日中韓同時通訳） 円卓会議Ⅱ：チュラーロンコーン大学日本語講座「タイにおける日本研究の現状と展望」（日本語） 円卓会議Ⅲ：Exploring the Impact of Generative AI on Education and Research （英語） 円卓会議Ⅳ：Asian Cultural Dialogues “The Limits and Possibilities of Freedom” （英語） 円卓会議Ⅴ：Animal Release Problems in Asia: Harm caused by introduction of animals into natural environments, with special reference to fish（英語） 円卓会議Ⅵ：ASEAN Centrality in Turbulent East Asia（英語） 円卓会議Ⅶ：INAF セッション「東アジア地域協力における朝鮮半島の統一と開発協力」（日本語） 円卓会議Ⅷ：モンゴルと中央アジアにおける文化と資源の越境（日本語） 分科会（口頭の論文発表）：発表論文 183 本、48 セッション

				■奨学金、表彰 第 7 回 AFC 優秀論文賞（21 名）及びコロナ禍のために対面で開催できなかった第 6 回の優秀論文賞（19 名）、優秀発表賞（52 名）の表彰 AFC 奨学金（50 名）、AFC 特別奨学金（27 名） ※第 6 回はオンライン開催だったため、第 6 回の受賞者は第 7 回以降のアジア未来会議への参加補助となった。
		② 優秀論文集『アジアの未来へ―私の提案 Vol.7』の出版 外部資金：高橋産業経済研究財団に助成申請中		優秀論文集を編集・出版（2025 年 3 月 21 日納本）1300 部 ・Editorial Direction：澤田博(ニューズウィーク日本版編集顧問) ・ジャパンタイムズ出版社｜(公財)高橋産業経済研究財団より助成 ※配本は 2025 年 6 月（外部委託）
	(8)	SGRA フォーラム、カフェ、海外拠点プロジェクト等を主催・共催		
		1　第 22 回日韓アジア未来フォーラム テーマ：「日韓協力の未来ビジョン、原則、そして協力方向―2025 年日韓国交正常化 60 周年に向けて（仮）」 日時：2024 年 5 月 会場：ソウル市 言語：日本語・韓国語（同時通訳） 参加者（見込み）：50 名 担当：金雄熙（仁荷大学） 外部資金：韓国（財） 未来人力研究院と共催		第 22 回日韓アジア未来フォーラムを開催 テーマ：「ジェットコースターの日韓関係－何が正常で何が蜃気楼なのか」 日　時：2024 年 5 月 18 日（土）14:00～17:40 会　場：ソウル大学国際大学院 140-2 棟　4 階　国際会議室 方　法：会場参加およびオンライン（Zoom） 参加者：50 名余 報告書： SGRA レポート第 108 号（2024 年 11 月 14 日発行） ■プログラム 開会の辞： 李鎮奎（未来人力研究院理事長） 南基正（ソウル大学日本研究所長） 第 1 部 報告と指定討論：日韓関係の復元、その一年の評価と課題 司　会：李元徳（国民大学教授） 報告 1：西野純也（慶応大学教授） 「日韓関係の復元、その一年の評価と課題：政治・安保」 報告 2：李昌玟（韓国外国語大学教授） 「日韓関係の復元、その一年の評価と課題：経済・通商」 報告 3：小針進（静岡県立大学教授）

				「日韓関係の復元、その一年の評価と課題：社会・文化」 討論１：金崇培（釜慶大学日語日文学部准教授） 討論２：安部誠（アジア経済研究所上席主任調査研究員） 討論３：鄭美愛（ソウル大学日本研究所客員研究員） ◇第２部 パネル討論：日韓協力の未来ビジョンと協力方向 司　会：南基正（ソウル大学日本研究所長） パネリスト：西野純也（慶応大学）、小針進（静岡県立大学）、安部誠（アジア経済研究所）、崔喜植（国民大学）、李政桓（ソウル大学）、鄭知喜（ソウル大学日本研究所）、趙胤修（東北アジア歴史財団） 閉会の辞：今西淳子（渥美国際交流財団常務理事・SGRA 代表） 金雄熙（韓国現代日本学会長） ■共　催：（財）未来人力研究院（韓国）、ソウル大学日本研究所、（社）韓国現代日本学会
		2　第９回日本・中国・韓国における国史たちの対話の可能性 テーマ：「東アジアの『国史』と東南アジア」 日時：2024 年 8 月 10 日（土）～12 日（月） 会場：チュラーロンコーン大学（タイ国バンコク市） 言語：日本語・中国語・韓国語（同時通訳） 参加者（見込み）：100 名 担当：李恩民（桜美林大学） 外部資金：東京倶楽部に助成申請中		第 74 回 SGRA フォーラム 第９回日本・中国・韓国における国史たちの対話の可能性を主催 テーマ：「東アジアの『国史』と東南アジア」 日　時：　2024 年 8 月 10 日（土）　9:00～12:30（タイ時間） 11:00～14:30（日本時間） 8 月 11 日（日）9:00～15:30（タイ時間） 11:00～17:30（日本時間） 会　場：チュラーロンコーン大学（タイ国バンコク市）及びオンライン（Zoom ウェビナー） 言　語：日中韓 3 言語（同時通訳） 参加者：会場約 60 名、オンライン約 20 名

				報告書：SGRA レポート第 109 号（編集中） ■プログラム ◇基調講演　司会：劉傑（早稲田大学） 開会挨拶：三谷 博（東京大学名誉教授） 基調講演：楊 奎松（北京大学・華東師範大学） 「ポストコロニアル時代における『ナショナリズム』衝突の原因 　― 毛沢東時代の領土紛争に関する戦略の変化を手掛かりに」 ◇発表　司会：南基正（ソウル大学） 発表：タンシンマンコン・パッタジット（東京大学）「『竹の外交論』における大国関係と小国意識」 発表：吉田ますみ（三井文庫）「日本近代史と東南アジア―1930 年代の評価をめぐって―」 尹 大栄（ソウル大学）「韓国における東南アジア史研究」 高 艷傑（厦門大学）「華僑問題と外交：1959 年のインドネシア華人排斥に対する中国政府の対応」 ◇指定討論　司会：彭浩（大阪公立大学） 討論者： 韓国：鄭 栽賢（木浦大学）、韓 成敏（高麗大学） 日本：佐藤雄基（立教大学）、平山 昇（神奈川大学） 中国：鄭 潔西（温州大学）、鄭 成（兵庫県立大学） ◇自由討論　司会：鄭淳一（高麗大学） 討論まとめ：劉傑（早稲田大学） ◇国史対話のこれから　司会：塩出浩之（京都大学） 閉会挨拶：宋 志勇 ■助成：一般社団法人　東京倶楽部
		3　第 17 回ウランバートル国際シンポジウムを共催 テーマ：未定 日時： 2024 年 8 月		第 17 回ウランバートル国際シンポジウム「ハルハ河・ノモンハン戦争 85 周年：新視点と新思考」を共催 テーマ：「ハルハ河・ノモンハン戦争 85 周年：新視点と新思考」 日　時：2024 年 9 月 6 日（金）、7 日（土）

		会場： 未定 協力機関：昭和女子大学国際文化研究所、 モンゴル国立大学社会科学部、他 言語：日本語・英語・モンゴル語 参加者（見込み）：日本、モンゴル、ロシア、 中国、韓国、ドイツからの研究者 100 名 担当：ボルジギン・フスレ（昭和女子大学）		会　場：モンゴル国立大学 1 号館 3 階 320 会議室 言　語：モンゴル語、日本語逐次通訳 参加者：100 名余り 報告書：今のところ予算がないため、刊行しない。 ■プログラム 日本、モンゴル、ロシアの研究者 14 名（共同発表も含む）により、13 本の報告 田中克彦（一橋大学名誉教授）、Ts.バトバヤル（モンゴル科学アカデミー会員・前在キューバモンゴル大使）、二木博史（東京外国語大学名誉教授）、R.ボルド（モンゴル戦略研究所教授、元モンゴル駐アメリカ・ロシア・トルコ大使）、ボルジギン・フスレ（昭和女子大学教授）、湊邦生（高知大学教授）、小林昭菜（多摩大学准教授）、J.オランゴア（モンゴル国立大学教授）、イリナ・アユセーワ（国立ブリヤート大学准教授）、L.アルタンザヤー（モンゴル国立教育大学教授）、L.バヤル（モンゴル国防科学研究所准教授）、J.ガントルガ（モンゴル国防中央文書館館長、中佐）、大堀和利（日本地理学会、日本軍事史学会）など。 ■共同主催：モンゴル国立大学科学カレッジ人文科学系アジア研究学科 ■後　援：公益財団法人渥美国際交流財団、公益社団法人守屋留学生交流協会、モンゴルの歴史と文化研究
		4　第 11 回日台アジア未来フォーラム@EACJS （1,000 千円） テーマ：「疫病と東アジアの医学知識――経験と予防」 ※東アジア日本研究者協議会第 8 回国際学術大会にて 日時： 2024 年 11 月 8 日（金）～10 日（日） 会場： 淡江大学（台湾） 協力機関：東アジア日本研究者協議会第 8 回国際学術大会、淡江大学、中鹿営造股份有限公司、他 参加者（見込み）：50 名 担当：藍弘岳（中央研究院）		第 11 回日台アジア未来フォーラムを主催 テーマ：「疫病と東アジアの医学知識――知の連鎖と比較」 日　時： 2024 年 11 月 10 日（日）9：00～12：10（台湾時間） 会　場：淡江大学淡水キャンパス驚声大楼 言　語：日本語 参加者：約 30 名 報告書：SGRA レポート第 111 号（編集中） ■プログラム 開会挨拶：今西淳子 報告 1：李尚仁（中央研究院歴史言語研究所）「コロナから疫病史を考え直す――比較史研究はまだ可能であろうか」 報告 2：朴漢珉（東北亜歴史財団）「清日戦争以前の朝鮮開港場の検疫規則」 報告 3：松村紀明（帝京平成大学）「幕末から明治初期の種痘について」

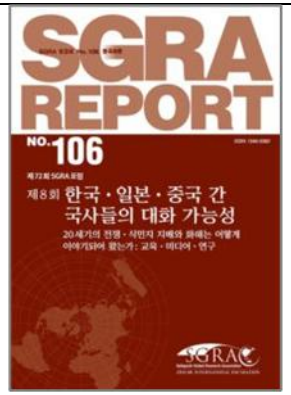
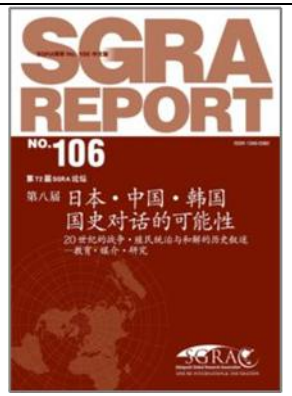
				報告４：町泉寿郎（二松学舎大学）「感染症と東アジア伝統医学」 討論１：市川智生（沖縄国際大学） 討論２：祝平一（中央研究院歴史言語研究所） 討論３：巫毓荃（中央研究院歴史言語研究所） 討論４：小曽戸洋（北里大学東洋医学総合研究所） ■共催：中央研究院史語所世界史研究室、協力：東アジア日本研究者協議会、 　賛助：中鹿營造股份有限公司
		5　東アジア日本研究者協議会第８回国際学術大会を協催、３セッションを主催 日時： 2024 年 11 月 8 日（金）～10 日（日） 会場： 淡江大学（台湾） 派遣者（見込み）：20 名（企画案を公募中）		東アジア日本研究者協議会第８回国際学術大会を協催、セッションを主催 日　時： 2024 年 11 月 8 日（金）～10 日（日） 会　場：淡江大学淡水キャンパス（台湾） 派遣者：19 名 ■派遣セッション ◇「視覚テクストと文学テクストとの関係」 司　会：加藤健太（明治大学） 発　表：梁蘊嫻（元智大学）「溝口健二『近松物語』にみられる女性観―江戸時代から近代までの女性形象の変容に焦点を当てて―」 発　表：Justyna Mickiewicz ・ 陳力綺（ Kazimierz Wielki University）「Persecution to Women in Contemporary Taiwanese Comics: A Multimodal Analysis Tan-Tsiu Niu」 討　論：藤城孝輔（岡山理科大学） 討　論：陳龔（京都精華大学） ◇「植民地・租界の美術と美術史」 司　会：邱函妮（台湾大学） 発　表：李趙雪（南京大学）「天津租界公園の記念亭と記念碑――東アジアのモニュメントの成立」 発　表：鈴木恵可（中央研究院）「植民地台湾から「外地」を視る―水彩画家・石川欽一郎の朝鮮旅行を中心に」 発　表：楊昱（九州大学）「戦前大連の文化住宅と郊外空間」 発　表：柯輝煌（東京大学）「植民地における朝鮮の書芸―呉世昌（1864-1953）を中心に」 討　論：Kolodziej, Magdalena（東洋英和女学院大学）

				◇「物語空間におけるモビリティ―日本と台湾の児童文学における鉄道旅行の象徴―」 司　会・討論：成實朋子（大阪教育大学） 発　表：Maria Elena Tisi（Bologna University）「日本児童文学における鉄道旅行」 発　表：張桂娥（東吳大学）「台湾児童文学における鉄道の役割とモビリティの象徴性―九歌版『年度童話選』(2003-2023)に登場する鉄道関連要素の考察」 討　論：安ウンビョル（東京大学） 討　論：齋木喜美子（関西学院大学） ◇「都市空間におけるモビリティ: 多角的な視点からの探求」 司　会：張桂娥（東吳大学） 発　表：安ウンビョル（東京大学）「東京圏の鉄道における外国人観光客の移動の実践に関する研究―モバイル・エスノグラフィーを手法にして―」 発　表：田中綾子（東吳大学）「CLIL の授業実践から考察する日本のモビリティサービスの課題―台湾 JFL 学習者を対象にして―」 討　論：陳建源（中興大学） 討　論：陳姿菁（開南大学）
		6　第 18 回 SGRA チャイナ・フォーラムを主催 テーマ：後小路雅弘先生講演：東南アジアの近代美術史に関して 日時：2024 年 11 月 23 日 会場：北京大学 ＋オンライン（ハイブリッド） 協力機関：北京大学日本文化研究所、清華東亜文化講座、国際交流基金北京日本文化センター 言語：日本語・中国語（同時通訳） 参加者（見込み）：300 名 担当：林少陽（澳門大学）、孫建軍（北京大学）		第 18 回 SGRA チャイナ・フォーラムを主催 テーマ：「アジア近代美術における〈西洋〉の受容」 日　時：2024 年 11 月 23 日（土）午後 3 時～5 時（北京時間）／午後 4 時～6 時（東京時間） 会　場：北京外国語大学北京日本学研究センター多目的室とオンライン（Zoom） 言　語：日本語・中国語（同時通訳） 参加登録者：175 名 報告書：SGRA レポート第 112 号（編集中） ■プログラム 総合司会：孫 建軍（北京大学日本言語文化学部／SGRA） 開会挨拶：周 異夫（北京外国語大学日本語学院長兼日本学研究センター長） 野田昭彦（国際交流基金北京日本文化センター所長）

				講　演：後小路雅弘（北九州市立美術館館長） 「アジア近代美術における〈西洋〉の受容―東南アジアのゴーギャニズム」 討論者：王 嘉（北京外国語大学アジア学院教授）、 二村淳子（関西学院大学教授） モデレーター：林 少陽（澳門大学歴史学科／SGRA／清華東亜文化講座） 閉会挨拶：王 中忱（清華東亜文化講座／清華大学中国文学科） ■共催：北京外国語大学北京日本学研究センター、清華東亜文化講座 後援：国際交流基金北京日本文化センター 協賛：鹿島建設（中国）有限公司
		7　第 73 回 SGRA フォーラムを主催 テーマ：「未定」（企画案を公募中） 日時：未定 会場：ハイブリッド 言語：未定 参加者（見込み）：100 名 担当： 未定		第 73 回 SGRA フォーラムを主催 テーマ：「パレスチナの壁：『わたし』との関係は？」 日　時： 2024 年 6 月 25 日（火）17：30～19：00 会　場： 昭和女子大学学園本部館 3F 大会議室及びオンライン 言　語： 日本語・英語（同時通訳） 参加登録者：182 名 報告書：SGRA レポート第 110 号（編集中） ■プログラム 司　会：シェッダーディ・アキル（慶応義塾大学訪問講師） 挨　拶：今西淳子（渥美財団 SGRA 代表） 発表①：ハディ ハーニ（明治大学特任講師）「パレスチナ問題の基礎知識：改めて、歴史と政治的構図の要点を抑える」 発表②：ウィアム・ヌマン（東京工業大学大学院生）「建築の支配：植民地主義の武器としての建造環境」 発表③：溝川貴己（早稲田大学学部生）「立ち上がる学生、クィア、環境活動家たち：2023 年 10 月以降の東京のパレスチナ解放運動」 質疑応答・ディスカッション
		8　第 22 回、23 回 SGRA カフェを主催		第 22 回 SGRA カフェを開催

		テーマ：「未定」（企画案を公募中） 日時：未定 会場：ハイブリッド 言語：日本語 参加者（見込み）：100 名 担当： 未定		テーマ：「逆境を超えて：パレスチナの文化的アイデンティティ」 日　時： 2024 年 10 月 5 日（土）11：00～12：30 会　場： 渥美財団ホール、Zoom ウェビナー 言　語： 日本語 参加登録者：74 名 報告書：SGRA レポート第 110 号（編集中） ■プログラム 司　会：シェッダーディ・アキル （慶應義塾大学） 講　演：山本薫（慶應義塾大学） 質疑応答・ディスカッション
				第 23 回 SGRA カフェを開催 テーマ：「岐路に立つシリア：抑圧から希望へ、不確実な未来への歩み」 日　時： 2025 年 2 月 8 日（土）14：00～15：30 会　場： 渥美財団ホール、Zoom ウェビナー 言　語： 日本語 参加登録者：60 名 ■プログラム 司　会：シェッダーディ・アキル （慶應義塾大学） 講　演：ダルウィッシュ・ホサム（ジェトロ・アジア経済研究所） 討　論：モハメド・オマル・アブディン（参天製薬株式会社） Q＆A 担当：岩田和馬（東京外国語大学）
		9　持続可能な共有型成長セミナーを SGRA フィリピンと共催 2024 年 5 月　41 回　UPOU＋オンライン 2024 年 9 月　42 回　UPOU＋オンライン 2024 年 11 月　43 回　UPOU＋オンライン 2025 年 1 月　44 回　UPOU＋オンライン ※UPOU フィリピン大学オープン大学（放送大		※SGRA フィリピンとフィリピン大学オープン大学、フィリピン大学ロスバニョス校との共同主催。 渥美財団 SGRA は資金的支援＋開会挨拶 ■第 41 回：2024 年 5 月 8 日（水）9:00～12:00（フィリピン時間）

		学のような機能をもつ）		会　場：フィリピン大学オープン大学＋Zoom 参加者：会場 15 名、オンライン 60 名 テーマ：「パーマカルチャーと遷移都市」 ■第 42 回：2024 年 7 月 10 日（水）16:30～18:00 （フィリピン時間） 会　場：フィリピン大学オープン大学＋Zoom 参加者：会場 15 名、オンライン 60 名 テーマ：「非従来型創業と農業」 ■第 43 回：2024 年 11 月 29 日（金）9:00~12:00 会　場：フィリピン大学オープン大学＋Zoom 参加者：会場 15 名、オンライン 30 名 テーマ：「地価税：共有型成長のメカニズム」 ■第 44 回：2025 年 3 月 20 日（木）13:30～16:30 会　場：フィリピン大学オープン大学＋Zoom 参加者：会場 15 名、オンライン 30 名 テーマ：「UPOU コミュニティ通貨 Alitaptap の実験」
		10　その他 2025 年 1 月 に SGRA フォーラム・カフェ・セッション及び東アジア日本研究者協議会における SGRA セッションの企画案を、元渥美奨学生を対象に公募		2024 年 10 月に 2025 年度のプロジェクトを全ラクーンメンバー宛の E メールで募集 （締切は 2025 年 1 月 10 日（金）） ８件応募⇒全てを採択し、2025 年度事業計画に反映 応募内訳：SGRA フォーラム企画案 3 件（東京、トルコ）、国際和解学会＠ソウル大学パネル企画案２件、東アジア日本研究者協議会（EACJA）＠韓国翰林大学パネル企画案３件
	(9)	SGRA レポートの発行		
		1　フォーラムの講演録の冊子をレポートとして発行し、会員他に送付する。 発行部数は各号 800～1000 部。また、PDF 版をホームページに掲載する。		

研究交流プロジェクトの成果等の発信		 		
		第 106 号「20 世紀の戦争・植民地支配と和解はどのように語られてきたのか」（日中韓 3 言語版）		第 106 号「20 世紀の戦争・植民地支配と和解はどのように語られてきたのか —教育・メディア・研究—」 日本語版：2024 年 4 月 12 日、韓国語版：2024 年 7 月 31 日、中国語版：2024 年 7 月 30 日発行。
		第 107 号「東南アジアにおける近代<美術>の誕生」（日中合冊版）		第 107 号「東南アジアにおける近代〈美術〉の誕生」 日中合冊版： 2024 年 6 月 13 日発行。
		第 108 号 「東アジアの『国史』と東南アジア」（日中韓 3 言語版）		第 108 号 「ジェットコースターの日韓関係－何が正常で何が蜃気楼なのか」 日韓合冊版：2024 年 11 月 14 日発行。
		第 109 号 未定		第 109 号「東アジアの『国史』と東南アジア」 日本語版は 6 月、中国語版・韓国語版は 9 月に発行予定
		[レポート送付先] ・賛助会員と特別会員（顧問、講師、元渥美奨学生 他） 約 600 名 ・国立国会図書館に納本（ISSN 1346-0382） ・鹿島建設資料室に納本 ・国内大学留学生センター、図書館、メディア、政党等に納本　約 70 機関 ・海外の日本研究センター、図書館等に納本　約 60 機関		・6 月下旬に年報とレポート 106 号、107 号を SGRA 会員と国内と海外の機関に送付。 ・11 月下旬にレポート 108 号を SGRA 会員と国内と海外の機関に送付。 ・各号、発表者に 20 冊、登壇者に 5～10 冊を送付。 ・国史対話レポートは登壇者に加えて今までに参加した研究者全員に該当言語のレポートを送付。 ・鹿島建設資料室に納本。 ・国立国会図書館に納本予定。

		2　SGRA レポートの教材化プロジェクト ・高校や大学の授業の副教材として使ってもらえるように、レポートの内容から PPT と動画を作成し、SGRA ホームページから誰でも無料で利用できるようにする。 2024 年度に 2 冊教材化をめざす ・レポート第 90 号「第 4 回日本・中国・韓国における国史たちの対話の可能性―『東アジア』の誕生－19 世紀における国際秩序の転換－」 ・レポート第 99 号「夢・希望・嘘　－メディアとジェンダー・セクシュアリティの関係性を探る－」	◆レポート第 101 号「第 7 回日本・中国・韓国における国史たちの対話の可能性 ―『歷史大衆化』と東アジアの歷史学」 2024 年 10 月：日本語版完成。 2024 年 12 月：韓国語版完成。 2025 年　3 月：中国語版完成。 ◇レポート第 90 号「第 4 回日本・中国・韓国における国史たちの対話の可能性―『東アジア』の誕生－19 世紀における国際秩序の転換－」 日本語版を製作中。中国語版、韓国語版も翻訳開始。 ◇レポート第 99 号「夢・希望・嘘　－メディアとジェンダー・セクシュアリティの関係性を探る－」 日本語版を製作中。英語版も制作予定。
	(10)	メールマガジンの配信	
		1　SGRA かわらばんの配信	（日本語：毎週 1 回配信）購読者 3108 名　1010～1056 号
		2　国史メルマガの配信	（日中韓 3 言語：毎月 1 回配信）購読者 393 名　56～65 号
		3　SGRA China Forum Email Letter の配信	（中国語：不定期）購読者 541 名　15～16 号
■基盤整備			
	(11)	ホームページの管理運営	継続中 ・渥美財団ホームページ　https://www.aisf.or.jp/ ・SGRA ホームページ　https://www.aisf.or.jp/sgra/ ・アジア未来会議ホームページ　https://www.aisf.or.jp/AFC/
	(12)	寄附金・助成金	
		1　書面による SGRA 活動賛助寄附依頼（5 月～9 月）	交流事業指定寄附：6 月と 11 月の SGRA レポート発送時にお願い状を同封 個人 78 件、法人 5 件　計 1,815,000 円　この他にアジア未来会議へ　法人 1 件　1,000,000 円
		2　賛助企業・寄附者を訪問依頼（12 月～1 月）	公益事業指定寄附：1 月にお願い挨拶　個人 3 件、法人 14 件　計 16,700,000 円
		3　国際交流事業の各プロジェクトのために助成金申請と賛助寄附金を募金	・鹿島学術振興財団に助成申請（2025 年 4 月 12 日（土）開催予定の第 75 回 SGRA フォーラム/第 45 回 KKK セミナー「地域市民の対話：国境を超える地方自治体・地域コミュニティ連携構想（LLABS）の可能性を探る」）⇒不採択

				・高橋産業経済研究財団に助成申請（2025 年 9 月 5 日（金）～9 日（火）開催予定の第 76 回 SGRA フォーラム「アジア文化対話：アジアにおけるジェンダーと暴力の関係性 ― 過去・現在・未来」） ⇒3,000,000 円
	(13)	2023 年度年報（1300 部）		6 月 1 日発行
	(14)	公益財団法人、在日留学生支援団体との情報交換と交流		・11 月 15 日、助成財団センター主催の助成財団フォーラム「“変化”の先を見据えた民間助成の取組み～次世代の担い手をエンカレッジする視点から～」にて事例報告 今西淳子「大学院生の奨学支援とグローバルネットワークの構築」 ・留学生奨学団体連絡協議会（JISSA）総会および分科会に参加。 ・JISSA の提供する東フィル鑑賞券の配布（8 回のコンサートに計 18 枚配布）
■その他				
	(15)	理事会と評議員会		
		第 47 回理事会 2024 年 5 月		第 47 回理事会を 5 月 13 日（月）にアルカディア市ヶ谷（私学会館）会議室とオンラインのハイブリッドで開催。
		第 18 回評議員会　2024 年 6 月 6 日（木）（鹿島建設 KI ビル）		第 18 回評議員会を 6 月 6 日（木）に鹿島建設 KI ビル中会議室で開催。終了後に懇親会。
		第 48 回理事会　2024 年 12 月（未定）（渥美財団ホール：忘年会の前に）		第 48 回理事会を 12 月 14 日（土）に渥美財団ホールとオンラインのハイブリットで開催。終了後に渥美奨学生を交えて忘年会（於：オトノハカフェ）。
		第 49 回理事会　2025 年 3 月 1 日（土）（渥美財団ホール：研究報告会の前に）		第 49 回理事会　2025 年 3 月 1 日（土）（椿山荘マホガニールーム）。その後、渥美財団ホールで 2024 年度奨学生春季研究報告会。
	(16)	渥美財団創立 30 周年祝賀会（夕食会）をアジア拠点地で開催 ソウル：日韓アジア未来フォーラムと同時期に 台北：日台アジア未来フォーラム@EACJS と同時期に 中国（できれば上海）：未定		ソウル：5 月 19 日にソウル大学ホアム（湖巌）教授会館で開催。参加者：42 名 バンコク（AFC 7）：8 月 12 日にバンコクで開催。参加者：約 90 名 台湾：11 月 10 日に上海郷村餐廳（濟南店）で開催。参加者：65 名 北京：11 月 23 日に四世同堂（魏公村店）で開催。参加者：50 名 ⇒奨学事業＞生活支援＞フォローアップ事業＞ラクーン会も参照